

支えに

Sasaeni

ご自由にお持ちください

2024年9月発行 Vol.63

【特集対談】
人と地域とつながる病院

新潟県福祉保健部長 中村洋心氏
新潟県厚生連佐渡総合病院 病院長 佐藤賢治医師

【インタビュー】
最新医療情報
『腎臓病のチーム医療』



県内11の病院が地域の皆さまの健康と心を支えます

- 村上総合病院 (村上市)
- 豊栄病院 (新潟市北区)
- あがの市民病院 (阿賀野市)
- 新潟医療センター (新潟市西区)
- 柏崎総合医療センター (柏崎市)
- 長岡中央総合病院 (長岡市)
- 小千谷総合病院 (小千谷市)
- けいなん総合病院 (妙高市)
- 糸魚川総合病院 (糸魚川市)
- 佐渡総合病院 (佐渡市)



広報誌「支えに」のバックナンバーは
こちらからご覧いただけます

JA新潟厚生連はSDGsに貢献します

自分で自分を介護できない。 だから備えが大切になる。

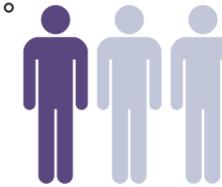
もしものときの、頼れる2つの保障。

認知症共済

介護共済

2025年には65歳以上の約3人に1人*が
認知症または軽度認知障害に。

*内閣府「令和5年版高齢社会白書(全体版)」・厚生労働省
社会保障審議会「介護給付費分科会 第115回(H26.11.19)参考資料」・「介護保険部会 第78回(令和元年6月20日)資料」をもとにJA共済連試算



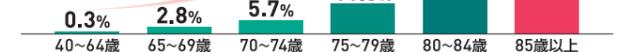
JAの認知症共済なら

認知症はもちろん
認知症の前段階の
軽度認知障害(MCI)まで
幅広く保障します。

85歳以上の約2人に1人が
要支援・要介護に。

年代別人口に占める要支援・要介護認定者の割合
厚生労働省「介護給付費等実態統計(令和5年4月審査分)」
総務省「人口推計(2023年4月1日現在)」をもとにJA共済連作成

要介護等に認定される方が
加齢とともに急増しています



JAの介護共済なら

一生涯にわたる介護保障で
不安の高まる高齢期も安心です。

共済金のお支払いは所定の条件があります

*ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。※この広告は概要を説明したものです。ご契約の際には「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。

はじめて共済



<https://shiryu.ja-kyosai.or.jp>

■JA共済ホームページ<https://www.ja-kyosai.or.jp>



本サイトから
「ひと・いえ・くるま」
各共済の資料請求・
掛金試算ができます。

JA共済相談受付センター(JA共済連 全国本部) 受付時間: 9:00~18:00(月~金) 9:00~17:00(土)

☎ 0120-536-093 ☎ 0120-167-100 (ご高齢者専用ダイヤル)

※日曜日、祝日および12月29日~1月3日を除きます。※メンテナンス等により予告なく変更する場合があります。
※電話番号は、おかけ間違いのないようご注意ください。※「ご高齢者専用ダイヤル」とは、直接オペレーターにつな
がり、ご高齢の方にもよりわかりやすく、丁寧に対応させていただく番号サービスです。



げんきなカラダプロジェクト・あんしんくらしプロジェクト

みんなで一緒に健康をつくる「げんきなカラダプロジェクト」。
いえ、くるま、農業といった大切なものを支える「あんしんくらしプロジェクト」。
この2つのプロジェクトで、みなさまの豊かな生活づくりをサポートしていきます。

専用ホームページでは、健康増進や防災・減災等のサービスのご紹介、各種イベントのご案内、お役立ち情報などを掲載しています。ぜひご覧ください!

<https://service.ja-kyosai.or.jp>



くらしの保障、相談するなら



特集 地域医療

人と地域とつながる病院

新潟県の中でも少子高齢化や人口減少が顕著な佐渡市。テクノロジーを活用した新時代の医療・介護について、キーパーソンの二人が語り合います。

—今回はこれからの地域医療に向けて、「離島・佐渡からの挑戦」をテーマにお話を伺います。

佐藤 まず、佐渡は人口統計を取り始めてから一度も人口が増加したことがないんです。特に若者の減少は顕著で、言い換えれば医療を提供する働き手の確保がとても難しい。これは佐渡に限ったことではありませんが、病院の収益が下がり、経営が厳しくなる現象は全国で起きています。そんな中で佐渡の取り組みが、他の地域のモデルになればと思っています。

中村 高齢化という医療を必要とする患者さんが増えるイメージがあると思いますが、実は数字を見ると猛烈に減っているんです。ここ10年で入院患者の数は新潟県では約10%減、佐渡に関しては約30%も減少しています。特に佐渡では患者さんの数に合わせて供給体制のバランスを取ることが重要と言えます。

佐藤 実はこの春、佐渡のある診療所の常勤医師が退職しました。診療所単体で考えると「医師がいなくなる＝閉院」



となりますが、地域全体で医療を提供する視点に立ち、病院の医師が遠隔から診療を行う「オンライン診療」により診療所を残せるのではないのでしょうか。実際に、佐渡総合病院医師によるオンライン診療を厚労省のモデル事業として進めています。また、同様の小規模医療拠点を島内に分散して設置することも考えています。オンライン診療には利点も多く、

①病院医師の診療支援により医師がいない診療所を維持できる

②診療所を支援する医師は、移動時間が必要ないため、より多くの患者さんを診察できる

③それまで診療所になかった診療科の医療を受けられるなどのメリットがあります。患者数も働き手も減る中で、医師一人の去就で診療所の存続・廃止が決まるのではなく、やり方を工夫して必要な診療所を地域に残すことが重要で

はないでしょうか。

中村 そうですね。医療政策が目指すところは、医療の質、アクセス性、コストの3つをバランスよく保つこと。その手法を試行錯誤しているのが今の段階です。新潟県の医療再編をネガティブに感じている人もいると思います。ですがオンラインなどのテクノロジーを活用することで、今までになかった診療科の診察を受けられるなどプラスの側面もあります。佐渡の取り組みは他の地域にも展開できる伸び代があると思っております。佐渡市とともに協力してしっかりと準備を進めていきます。

佐藤 退院後の生活を考えると訪問看護の充実も必須です。そのための新しい仕組みづくりも構想しています。佐渡を大きく4つの地域に分け、それぞれに訪問看護担当者を配置。佐渡総合病院の訪問看護ステーションが司令塔となり、島全体からの依頼を各地域に割り振るシステムです。事務作業を一元化し、医薬品や医療材料も一括管理できればさらなる効率化も可能でしょう。そのためには患者さんに関する情報共有が欠かせません。医療情報は「さどひまわりネット」で共有が進んでいます。家族構成などの生活に関する情報を共有するシステム「さどへ

佐渡総合病院
病院長
佐藤 賢治

医療×地域 Topics

佐渡総合病院では、島民への医療や介護の一体的な提供を目指し、(一社)佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会に参加。医療や生活の情報を関係機関が共有し、持続的なサービスを提供する仕組みづくりを進める。



佐渡総合病院HP▶

ルスケアナビ」も構築、試験運用が始まります。—最後に、県民や地域住民にメッセージをお願いします。

中村 患者や働き手の減少、医療の集約とネガティブな話ばかりに聞こえるかもしれませんが、医療資源の集約は、別々の見方をすればそれだけ体制が手厚くなるということです。受けられる医療や介護の質が上がる可能性もありますので、医療再編は決して悪い話だけではないと思います。自分の家の近くから医療がなくなってしまう不安もあると思いますが、持続可能な将来に向けて必要な医療を提供したいと真剣に考えています。住民の方の意見も聞きながら進めていきたいので、ぜひご協力をお願いします。



佐藤 行政も介護も医療も、目的は「住民の生活」というただ一点です。私たちはそのために何をすべきか必死で考えています。しかしながら生活するのはご自身です。皆さんも自らの変化を敏感に感じ取り、ぜひ私たちと一緒に車輪を回していただきたいと思います。

新潟県 福祉保健部長

中村 洋心

地域×医療 Topics

新潟県では、持続可能な医療の提供のために新潟県全域の医療再編を進めている。県内5つの市町でへき地におけるオンライン診療モデル事業をスタートするなど、へき地の医療課題の解決にも取り組む。

『腎臓病のチーム医療』

慢性腎臓病（CKD）に関わるさまざまな医療スタッフとその役割、連携についてご紹介します。



佐渡総合病院
診療部長
ワダ マサカズ
和田 真一

2004年新潟大学医学部卒業。以降、新潟大学医歯学総合病院及び関連病院に勤務。2010年佐渡総合病院着任。

【主な所属学会】
日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会

【主な資格】
医学博士（2015年）
日本内科学会：認定内科医（2008年）、総合内科専門医（2015年）、内科指導医
日本腎臓学会：腎臓専門医（2015年）
日本腎代替療法医療専門職推進協会：腎代替療法専門指導士

早期発見と生活習慣の改善が重要

今回は慢性腎臓病（CKD）のチーム医療についてお伝えします。慢性腎臓病については、「支えに」2023年12月号で後藤慧先生による詳しい解説があります（※）。最近では成人の5人に1人が慢性腎臓病とも言われ、動脈硬化や糖尿病など生活習慣病によるものが増えています。

早期には自覚症状がほとんどなく、進行してしまうと透析などの腎代替療法が必要となり、生活に大きな影響を及ぼします。腎代替療法に至らないために、まずは早期発見に努めること、病気がなってしまう場合は進行を少しでも遅らせるために生活習慣を見直すことが重要です。

腎臓病はチームで たたかう病気

CKDに関わる医療スタッフは多岐にわたります。佐渡地域では佐渡総合病院（医師・看護師・薬剤師・栄養士）、佐渡市役所、保健所、調剤薬局など関係者が構成される「佐渡地域CKD対策会議」



CKD 啓発シール

を年2回開催し、連携しながら慢性腎臓病の普及啓発・早期発見・進展予防に取り組んでいます。具体的な活動として、市民の方に関心を持ってもらえるように健診会場や調剤薬局にCKDミニのぼり旗を設置し、健診結果で対象になる方や、調剤薬局では地域医療連携ネットワーク「さどひまわりネット」のデータを活用し注意が必要な方へ、「CKD」と書かれたシールを配布しています。シールはお薬手帳の表紙に貼ることで、薬剤師による薬の飲み合わせのチェックや服薬指導に役立っています。

腎代替療法の選択を スタッフがしっかり支援

さまざまな対策をしても、残念ながら病気が進行し、命をつなぐために腎代替療法が必要になる場合があります。腎代替療法は、血液透析・腹膜透析・腎移植の3つの方法があります。より良い選択ができるように看護師や専門スタッフが説明・支援を行います。必要に応じてメディカルソーシャルワーカーもサポートするので安心してください。血液透析に関しても、通常治療・災害対策・感染対策・フレイル対策など、さまざまな状況や可能性を考慮。臨床工学技士・行政・栄養士・リハビリスタッフなどが関わりながら、安全・安心を第一に進めていきます。

慢性腎臓病は、完治させる薬がほぼなく、また「これをして良くなる」というものでもありません。進展予防には日々のあらゆる生活習慣が重要です。患者さん本人の努力やご家族の協力が欠かせませんが、そのみでは心許ない部分を、我々多数の医療スタッフが「支えていくこと」になります。



透析室の多職種チーム



透析予防の多職種連携チーム

※「支えに」2023年12月号（最新医療情報『慢性腎臓病』編）はこちらからご覧いただけます。



透析室で活躍する看護師の紹介動画をご覧いただけます。



こんにちは!

薬剤部です

知っておきたいお薬の知識

ぜんそく

秋と喘息



秋は喘息の症状が悪化しやすい季節であるため喘息患者さんにとって特に注意が必要な時期といえます。ここでは、秋における喘息の特徴、予防策、そして治療薬について紹介します。

特徴と予防策

喘息とは空気の通り道である気道が炎症を起こし、様々な要因によって刺激され気道が狭くなってしまい、息苦しさや咳などの症状があらわれる疾患です。秋における喘息の特徴として朝晩の気温が日中に比べて急激に下がることで気道が刺激され、発作が起きたり、症状が重くなったりすることが挙げられます。また、花粉やカビといったアレルギー物質が増加することも症状を悪化させる要因となります。春はスギやヒノキなどの樹木の花粉が飛散しますが、花粉粒子径が大きい鼻粘膜に留まりやすく、鼻水やくしゃみなどの症状が出ます。一方、秋はブタクサなど草の花粉が飛散し花粉の粒子が小さいため、気管まで到達し咳や喘息発作を引き起こしやすいとされています。予防策として室内の温度や湿度を管理することや衣類で体温調節をし、なるべく温度差を小さくすること、冷たい風やアレルギー物質、ウイルスから気道を守るためにマスクを着用すること、こまめな掃除などが大切になります。

喘息の治療薬

最後に治療薬についてです。喘息の治療は発作時に用いる発作治療薬(リリーバー)と発作の予防、症状の緩和を目的として用いる長期管理薬(コントローラー)の2種類があります。基本的には長期管理薬を使用し、気道の炎症を抑えて発作が起きない状態を維持することが重要になります。長期管理薬として抗炎症作用を持つステロイドと抗アレルギー薬、気道を

広げる作用を持つ薬と気道の収縮を抑える薬があります。これらの薬剤を重症度に応じて異なる作用の薬を合わせた合剤の使用や作用の異なる薬を複数併用します。発作時には速やかに気道を広げる作用をもつ即効性が高いタイプの薬やテオフィリン薬などを使用します。投与の仕方については基本的には吸入薬での治療となります。吸入器の種類はガスの圧力で薬剤を噴出するエアゾール製剤や自分の力で吸い込むタービューヘイラー、ディスクス、ゆっくりと噴霧される吸入液を吸い込むレスピマットなど多数存在します。そのほかにも患者さんの年齢や症状にあわせて内服や貼付、静注といった投与方法もあります。このように適切な予防策と治療薬の使用により、症状をコントロールすることが可能です。定期的な医師の診察を受け、自分に合った治療法を見つけることが重要になります。

医薬品を正しく安全に使い、健康を守るために、医療用医薬品は指示された用法・用量をきちんと守って正しく使いましょう。お薬について分からないことや、不安なことがあれば、いつでも気軽に薬剤師にご相談ください。

糸魚川総合病院
オオシマ ヨウキ
薬剤師 大島 悠暉



治験NEWS

治験に薬剤師も関わってます

薬剤師が治験事務局をしています。治験に参加される患者さんの人権等を守り、実施・継続することに問題はないか、治験薬(くすりの候補)を薬学的に評価しています。

実施中

- 【長岡中央総合病院】 ● 高カリウム血症
- 潰瘍性大腸炎 ● 糖尿病性末梢神経障害
- 市中肺炎 ● COVID-19家庭内感染予防

※該当する方や詳細を知りたい方は、主治医にお申し出ください。治験に参加するには細かい条件があります。ご希望いただいても、参加いただけない場合がございます。

専門医が解説します!

病気ピックアップ

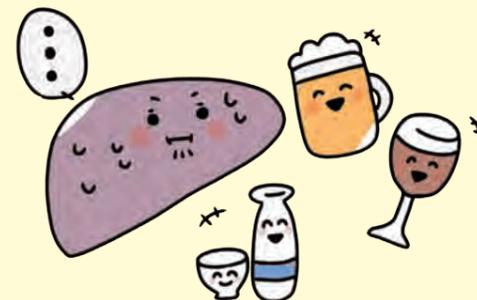
慢性肝臓病 (CLD)

ALT>30であれば慢性肝臓病 (CLD) の可能性があります~奈良宣言2023~



上越総合病院
消化器内科 副院長 サトウ トモミ
佐藤 知巳

近年B型肝炎やC型肝炎といったウイルス性肝疾患は目覚ましい治療の進歩を遂げましたが、いまだに肝硬変や肝臓がんに進行してから初めて発見されるケースが数多くみられます。ウイルス性肝疾患による死亡者が減少する一方で、生活習慣病を基盤とする脂肪肝 (MASLD) やアルコール性肝疾患をベースとした肝硬変、肝臓がんが急速に増えてきているためです。



奈良宣言2023

上記のような状況を踏まえて、昨年6月に奈良市で開催された日本肝臓学会総会において「奈良宣言2023」が提唱されました。健診でALT>30U/Lであった場合、まずかかりつけ医を受診しましょうという提言です。そしてかかりつけ医によって原因検索がなされ、必要に応じて消化器内科専門医と密接な診療連携を取ることで肝硬変や肝臓がんへとつながる慢性肝臓病 (CLD: Chronic Liver Disease) を早期に発見して治療を導入することを目的としています。

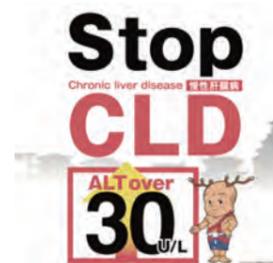
対策

肝臓病は自覚症状がないまま進行し、肝線維化から肝硬変、肝臓がんへと進行していきます。積極的に健診を受けて定期的に肝臓の状態をチェックするようにしましょう。

予防方法 (注意すべきこと)

最近増加しているアルコール性肝疾患ですが、飲酒量を一定量以下に減らすことで肝硬変へと進行するリスクを軽減することが期待できます。エタノール換算で男性で40g/日以下、女性で20g/日以下が目安になります。節度ある飲酒を心掛けましょう。

※20gの目安: ビール500ml、日本酒1合、缶チューハイ350ml、ワイン2杯



みなさまの健康と心の支えに

JA新潟厚生連の宣言

JA新潟厚生連は持続可能な社会の実現を目指します。

SDGs紹介シリーズ 厚生連が対応する15の目標を毎号順番に紹介します。



強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

- ▶ 地域医療構想の実現に向けた連携・協力
- ▶ 大学、地元行政と連携した寄附講座の設置
- ▶ へき地医療拠点病院による過疎地への医療の提供



JA新潟厚生連

※「SDGs (エスディージーズ)」とは、持続可能な世界を実現するための17の目標を掲げ、地球上の誰一人として取り残さないことを誓う、2030年までの国際社会共通の目標です。支えに (2024年9月号) 6



おうちで介護予防

身体介助やリハビリなど「身体」に関わる専門職ならではの知識や技術を、わかりやすくお伝えします。

長岡中央総合病院
リハビリテーション科
言語聴覚士
オオヤ タクミ
大矢 拓良



今回のテーマ

スクワットで飲み込みの機能を維持しよう。

「加齢による生理的変化としての嚥下機能の低下」を老嚥(ろうえん)といい、嚥下のフレイルの状態を指します。これは高齢に伴うもので嚥下障害ではありませんが、機能的な余力が低下しているためいずれは嚥下障害となり、窒息や誤嚥性肺炎のリスクも高まります。フレイルを予防するために必要となるのが、全身の運動。必要な栄養をしっかり摂りながら、効果的に行えるスクワットで予防しましょう。

Step 1

浅く椅子に腰掛けず。
足を椅子の方に引いて座ると、
立ち上がりやすくなります。

POINT
足を椅子の方に引いて座って

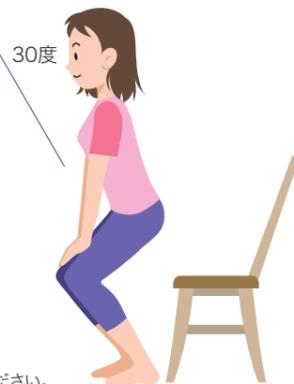


Step 2

30度くらいお辞儀をしながら
4秒ほどかけ、
ゆっくりと立ち上がります。

繰り返す

立ち上がった後、また4秒ほど
かけてゆっくりと座ります。



注意/膝や腰の痛みがある場合は、無理に行わないでください。

最初は1日10回くらいからスタート。徐々に回数を増やしなが、1日40回程度を目指しましょう!



管理栄養士 食のプロがオススメするメニュー

ほうれん草とツナのおひたし

わたしたちがご紹介します!

料理上手のツナポイント

あがの市民病院
管理栄養士
ソウマ マリ
相馬 麻鈴



ほうれん草が苦手な子供がこれ美味しい〜♪と好評でしたv(^-^)v

調理時間 10分

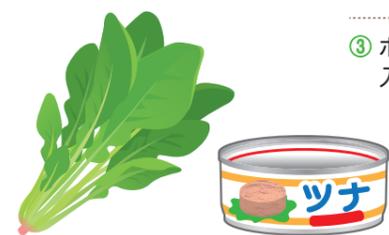
材料(2~3人分)

- ほうれん草.....2分の1束
- ツナ缶.....半分
- めんつゆ.....お好みの量

作り方

- ① ほうれん草を茹でます。
- ② 茹であがったほうれん草は食べやすい大きさにきります。ツナ缶の油をきっておきます。
- ③ ボールにツナとほうれん草とめんつゆを入れて和えたら出来上がり〜♪

- まだ暑い日が続く中、さっぱりとしたおひたしはいかがでしょう?
- めんつゆで簡単においしく味付けができます!
- ほうれん草は緑黄色野菜の中でも鉄分が豊富です。



<https://life.ja-group.jp/recipe/>

お手軽レシピで作る JAグループ Q 検索



今月のキラキラさん



佐渡総合病院
看護師
柳屋 美由紀(ヤナギヤ ミユキ)
佐渡市出身。新潟市の病院や真野みずほ病院を経て2022年12月より佐渡総合病院へ。総合サポートセンターひまわり内の「認知症疾患医療センター」にて、相談窓口をはじめとする認知症関連の業務を担当する。

「患者さんとじっくり向き合う看護」を目指す柳屋看護師。現在の仕事内容や大切にしていることを聞きました。

「現在の仕事内容や、仕事をする上で大切にしていることは?」

「もの忘れが気になる」「もしかして認知症かも」というご本人やご家族のお話を聞き、神経内科や精神科につながる仕事をしています。心がけていることは、今困っていることや辛いことを、率直に話してもらうことです。具体的には、本人や家族が抱えている課題を、できるだけ多く話してもらうことを目指しています。「こんなことは認知症と関係ないかな」というようなことも、その人が話したいと思ったことはすべて大事な情報だと思って耳を傾けるようにしています。

「なぜ認知症の分野を担当することになったのですか?」

精神科の領域に昔から興味があったこと、患者さんとじっくり向き合って話を聞く看護のやり方が自分に合っていることが大きいと思います。学校を卒業して最初に勤めた病院はとても忙しくて患者さんと向き合う時間がなく、私に

とってはそれがストレスでした。一度看護師を辞めて佐渡に戻ってラーメン屋さんでアルバイトをしていたのですが、小木の診療所で看護師を探していると聞いて復職。ここは患者さんだけでなく元気な人もおしゃべりに来るような所で、自分のやりたい看護を見出すきっかけになりました。

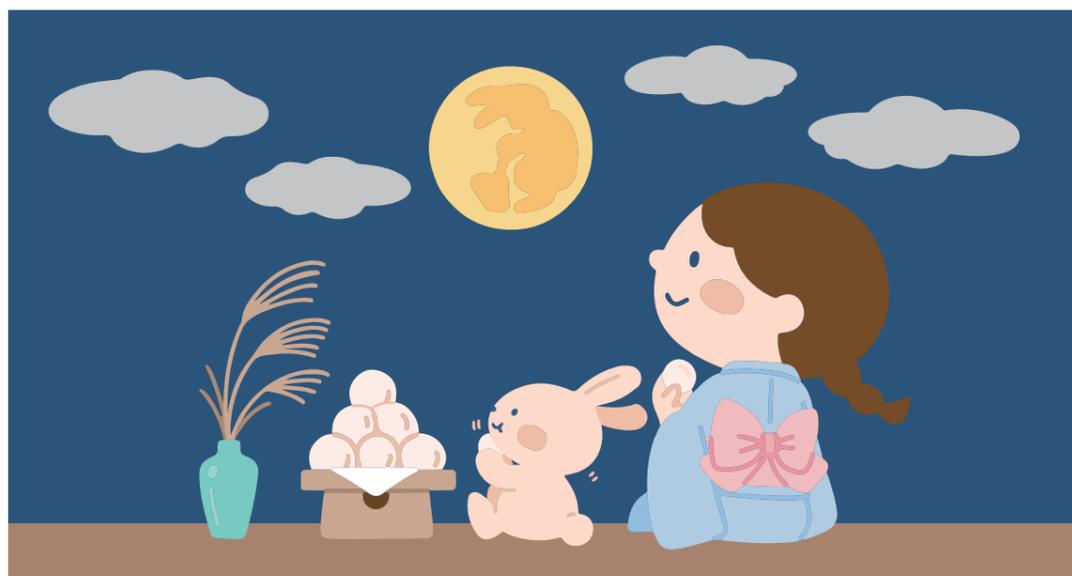
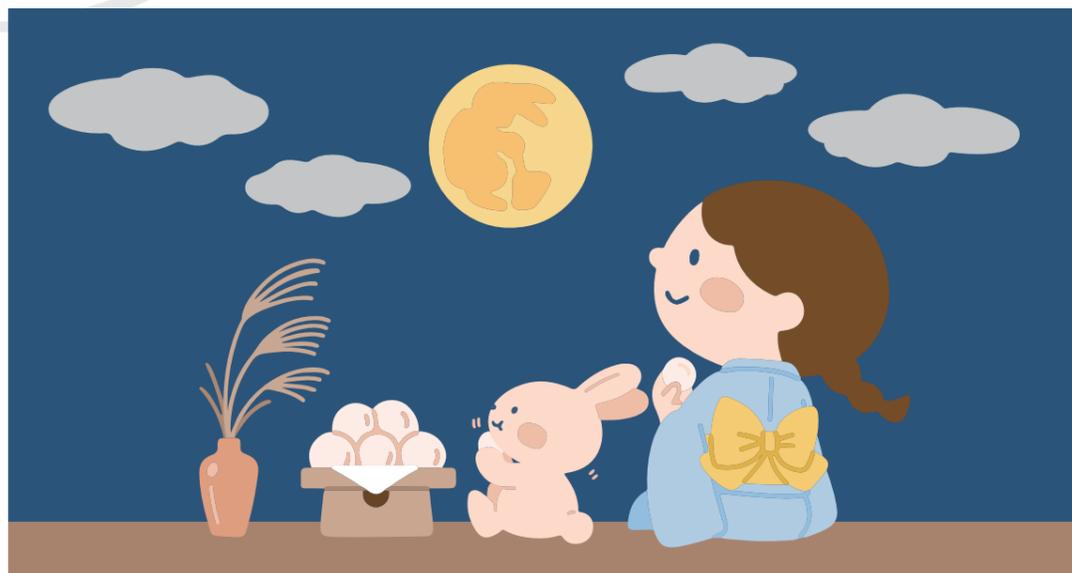
「今後の目標を教えてください。」

もの忘れや認知症について、早めに相談に来ていただけるよう働きかけていきたいです。佐渡総合病院では2泊3日の「もの忘れ検査入院」を昨年開始しました。実際に入院した方で、認知症とは思っていなかったけれど認知症の診断がついたケースもあります。認知症は早期発見によって進行を遅らせることができますし、今ある生活をどう続けていくか、ご家族を含めて考える時間ができます。気になる方は、ぜひお問い合わせいただきたいと思います。

カタチ de 脳トレ

イラスト間違い探し

上と下の絵には、どこかに間違いが5カ所あります。全部探してしまいましょう。



8月号の答え

- ①男の子の髪型
- ②女の子のポイの色
- ③女性の髪飾り
- ④女性のポーチの色
- ⑤右上の提灯の色



● 9月号の答えは10月号で発表します! お楽しみに!!

次号告知

次号の特集「人と地域とつながる病院」は、上越地域の救急医療をクローズアップ。高齢化の進展に伴い、改めて救急医療のあり方が問われています。そこで、救急搬送における医療機関の受入れ状況や救急医療体制について、上越総合病院救急科の田中副院長が上越地域消防局の局長をお迎えし、消防と医療機関の連携強化に向けた想いを語り合います。



JA新潟厚生連本部

7/17 令和6年能登半島地震 感謝状が交付されました

1月に発生した「令和6年能登半島地震」での災害救助に対して、全国厚生農業協同組合連合会を通じて、農林水産大臣より感謝状が交付されました。



あがの市民病院

6/29 看護師研修会

新発田圏域の看護師、養護教諭等を対象とした研修会の講師として藤森病院長と菊地感染管理認定看護師が参加しました。

7/6 中学校講演会

藤森病院長が川東中学校の生徒たちへ喫煙やアルコール摂取、ストレスなどがんについて学び、がんを予防する啓発活動の講演を行いました。



7/3 セタコンサート

職員コーラスグループと地元コーラスグループによる患者様との交流会です。



7/18 あがの医療連携の会

病院と近隣医療機関を対象としたあがの医療連携の会を開催しました。五泉中央病院 内分泌・代謝内科山田先生及び新潟大学寺井教授からご講演いただきました。



SNSの活用であらゆる情報を効率的に発信しています

本会ホームページには病院公式SNS集や動画ギャラリーページがございます。



ご意見・ご感想をお寄せください

本会では、「患者さんの声」を病院の経営に反映させることが大切と考えております。皆様からお寄せ頂いた貴重なご意見・ご要望などを積極的に活用しながら、より充実した医療・保健・福祉を提供する体制を整え、患者さんの気持ちに寄り添った心温かいサービスを心がけてまいります。皆様からのご意見・ご感想は、下記まで電話、FAX、お手紙でお寄せください。

個人情報の取り扱いについて

個人情報などお寄せいただいた内容は、本会において適切に管理いたします。また、本会からの各種ご連絡、出版物などのご案内などにも利用させていただく場合があります。

あなたの街の「かかりつけ薬局」にお気軽にご相談ください



株式会社ダイチク(アイン薬局)
【本部所在地】
〒950-1151 新潟市中央区湖南24-2
TEL 025-288-0228
URL www.ainj.co.jp



株式会社 共栄堂
【本部所在地】
〒950-0162 新潟市江南区亀田大月2丁目5-38
TEL 025-383-1200
URL https://www.kyoeido.net

支えに

新潟県厚生農業協同組合連合会 広報誌 2024年9月号
〒951-8116 新潟市中央区東中通一番町86番地109
tel.025-211-2710(代表) fax.025-228-0992(代表)
企画/ ㈱新潟日報メディアネット 企画・編集・協力/ ㈱メディレボ



JA新潟厚生連ホームページURL
https://www.niigata-kouseiren.or.jp/

